

第7回日本スポーツグランプリ 受賞者(功績)

1.	シズムラ ヤスオ 静村 保雄	89歳(男性)	広島県	サッカー	活動歴: 78年 顕彰対象区分(1)
<p>10歳からサッカーを始め、プレイヤーとして活躍する傍ら、広島県下の幾多のサッカークラブの設立に携わり、サッカー競技の環境整備に取り組んだ。また、日本サッカー協会1級審判員として20年以上にわたり、各種大会のレフェリーとして活躍するとともに、地域における審判員の育成、指導にも尽力され、現在もサッカー競技の普及に励んでいる。</p>					
2.	ヤダ クニコ 矢田 邦子	77歳(女性)	青森県	スケート	活動歴: 61年 顕彰対象区分(1)
<p>高校時代からスピードスケート競技を始め、昭和27年の第7回国体に初出場した後、第15回国体まで連続して出場した。また、昭和29年の全日本選手権大会では、高校生として初めて総合優勝に輝いた。一線を退いた後も、後進を指導する傍ら競技は続け、49歳で再び国体に出場した。さらに、平成13年から平成17年まで全日本マスターズスピードスケート競技会に連続出場するなど、現在も自身のトレーニングに励むとともに、次世代の選手の育成に取り組んでいる。</p>					
3.	スガハラ トシユキ 菅原 俊之	82歳(男性)	千葉県	剣道、柔道、ソフトテニス、馬術	活動歴: 68年 顕彰対象区分(1)
<p>小学校在学中から剣道、柔道、ソフトテニスと様々な競技に取り組む。就職後、職場の乗馬会で乗馬を始め、昭和35年の第5回官庁四団体親善馬術大会中障害飛越競技で個人優勝を果たすなど、優秀な成績を収めた。また、シニアを対象とした日本社会人馬術連盟ゴールデンジャンピングショーにおいては、平成8年から2年連続優勝を果たすなど、現在も毎週のトレーニングを欠かさず活動している。</p>					
4.	サセ リウイチ 佐瀬 良一	82歳(男性)	栃木県	水泳	活動歴: 67年 顕彰対象区分(1)
<p>15歳から本格的に水泳競技を始め、昭和21年の栃木県水泳選手権大会に出場し、初優勝する。また、第2回(昭和22年)から第6回(昭和26年)の国体に連続出場するなど、数多くの大会に出場し活躍した。特に、平成23年10月に開催された第8回栃木県マスターズ水泳大会では80歳以上区分25m自由形、25m背泳ぎ、50m背泳ぎの各種目において大会新記録で優勝するなど、現在もプレイヤーとして活躍している。</p>					
5.	シムラ オサム 西村 治	80歳(男性)	山口県	ソフトテニス	活動歴: 65年 顕彰対象区分(1)
<p>15歳からソフトテニスを始め、山口県教員団に所属していた、昭和40年から平成3年の間には、国体に6回出場し3度の入賞を果たすとともに、退職後も全国スポーツレクリエーション祭やねりんピックなどの各種大会に出場している。また、プレイヤーとして活動する傍ら、防府市における韓国や台湾との交流を推進し、ソフトテニスの普及に貢献した。</p>					
6.	クニマツ リキチ 國松 利吉	86歳(男性)	福岡県	柔道、ダンス、ラグビーフットボール	活動歴: 54年 顕彰対象区分(1)
<p>10歳から柔道を始め、15歳の時に旧制中学校のラグビーフットボール部に入部し本格的に競技を始める。終戦後は西日本舞踏協会に所属し、ダンスに親しむ。その後、ラグビーフットボールの活動を再開し、昭和47年から中高年を対象としたラグビーフットボールクラブに所属し、ねりんピックなどで活躍した。現在も活動を続けており、本年10月に日本で開催されるゴールデンオールディーズ・ラグビーフェスティバル福岡大会への出場が予定されている。</p>					
7.	キタムラ マサコ 北村 正子	98歳(女性)	東京都	ゴルフ	活動歴: 66年 顕彰対象区分(1)
<p>女学校時代から社会人にかけて、ソフトテニス、弓道、バスケットボール、スキーと様々な競技に親しむ。48歳からゴルフを始め、様々な大会に参加し優勝を果たすなど活躍した。昭和44年に、筑波カントリークラブの会員となり、現在も年間100回近いプレイ回数を誇る。スコアもハーフを56から60で回る腕前であり、コースに出ない日は日々自身の鍛錬に励んでいる。98歳の現在もプレイする姿は、数多くのゴルフプレイヤーにとって、生涯スポーツ実践者としての模範的存在である。</p>					
8.	タジマ トシオ 田嶋 俊雄	86歳(男性)	大阪府	水泳	活動歴: 77年 顕彰対象区分(2)
<p>9歳から水泳を始め、86歳の今日まで水泳を続けている。常に記録の向上に励み、マスターズ大会において日本国内の年度最高記録を103個、日本記録を54個、世界記録を30個達成した。特に平成22年には85～89歳区分短水路50m平泳ぎ(タイム:44秒47)や、平成23年には85～89歳区分長水路50m平泳ぎ(タイム:45秒58)など、5種目においてマスターズ世界記録を樹立し、現在も保有している。</p>					

9.	ミヤウチ 宮内	ヨシミツ 義光	88歳(男性)	鹿児島県	陸上競技	活動歴: 66年	顕彰対象区分(2)
<p>22歳から現在まで66年間の長きにわたり陸上競技を続け、特にマスターズ陸上では、平成16年の第25回全日本マスターズ陸上競技選手権大会M80(80～84歳区分)において、800m(2分59秒63)、1500m(5分59秒11)、5000m(22分4秒20)の3種目で優勝し、織田幹雄賞(最優秀選手賞)に輝いた。</p> <p>その後も、数多くの世界記録・日本記録を樹立し、現在、M85(85～89歳区分)において800m(3分18秒85)及び1500m(6分51秒32)の2個の世界記録、10個の日本記録を保持している。</p>							
10.	フタナベ 渡邊	タマエ 玉枝	73歳(女性)	山梨県	山岳	活動歴: 45年	顕彰対象区分(3)
<p>28歳の時に職場の上高地ハイキングに参加後、勤務先である神奈川県庁の山岳会に入会し登山の面白さに目覚める。昭和52年にアラスカのマッキンリー(6194m)に、平成14年にはネパールのエベレスト(8848m)に女性最高齢記録(63歳)で登頂に成功する。また、平成16年にはネパールのローツェ(8516m)に登頂し、8000m級の5座(ローツェ、チョー・オユー、ダウラギリ、ガッシャブルムⅡ峰、エベレスト)を制覇する。平成24年5月には、73歳で再度エベレスト登頂を成し遂げ、自身が持つ女性最高齢記録を更新する。</p>							

注) 年齢:平成24年9月29日時点